関高 SGH 情報　第６９号
平成 30 年 3 月 14 日(水)
SGH プロジェクト委員会

本校SGH活動の柱のひとつは、教員による授業改善です。今回は各教科のとりくみについて紹介します。

【1. 国語科】

■授業改善（国語科）

国語教育で育むべき学力として、

①基礎的・基本的な知識・技能

②知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

③主体的に学習に取り組む態度

が挙げられる。

なかでも、③の主体的に学習に取り組む態度や②の思考力・判断力・表現力は、グローバル化する社会で活躍する人材にとって大きく求められる資質、能力であり、国語科でもアクティブ・ラーニング型授業を展開し、意識してその育成、伸張に取り組む授業改善を行った。

◇　研究授業１

日時　　５月２９日（火）第５限
授業者　上野志津子
対象者　１年６組
＜科目・単元＞　国語総合（古文）　説話『宇治拾遺物語』より「絵仏師良秀」
＜学習活動＞　①本文を根拠に、良秀の人物像（人間性や生きる姿勢）を考察する。
②本文の展開、良秀の人物像の考察を踏まえて、「よぢり不動」の解説を書く。
＜工夫した点＞　・４人１グループで活動する
・「テキストに〇〇とあり、そこから△△と考えることができる」と答えることとすることで、テキストを根拠とした読解、考察を意識づける
・「よぢり不動」を展示する美術展を行うという場を設定し、美術展を企画する　キュレーターとして美術展のキャッチフレーズと作品解説を作る。
＜生徒製作例＞

１年６組アートミュージアム presents

躍動する炎への驚異　鬼才良秀の「よぢり不動」展

解説①

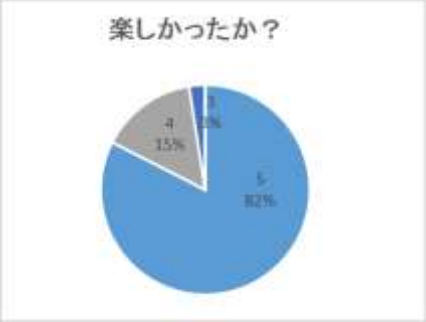
絵仏師として名を馳せた良秀。その仏絵へのこだわりは、燃えている家の中の妻子なども放っておいて、炎の燃え方を見ていたほど。仏絵に生涯をかけた男の力作、とくとご覧あれ。

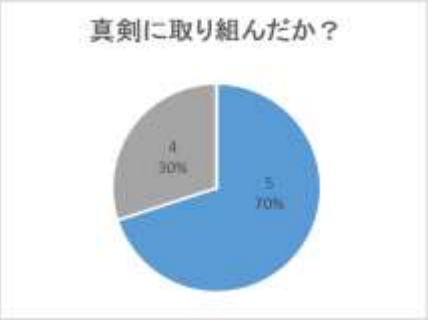
解説②

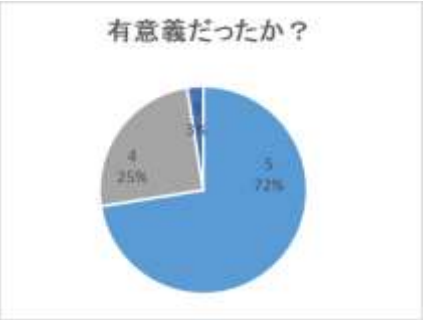
こちらの「よぢり不動」は、まさに良秀がすべてを失い、犠牲にして描いた魂の一作といっても過言ではないだろう。とくに注視してほしいのは、不動尊の後ろの火炎だ。ほかの絵仏師の描く火炎よりもひねりが激しく、今にも燃え広がっていきそうなくらい勢い盛んな火炎だ。この火炎は、良秀が自宅の燃える様子から学び、描いた

炎である。この作品から彼の絵への高きプライドが感じられる。

＜生徒の感想＆意見＞







・発展学習をすることで、もっと知ろうとする気持ちが生まれました。
・とても楽しかったです。いろんな視点が面白かった。
・楽しかった。他の班では自分たちと違う意見で、こんな意見、表現があるのかと勉強になった。
・学習内容を短い文にまとめることができたし、楽しかった。
・グループの仲間と意見を出し合い、良いものを作り上げることができて楽しかった。
・考えることが楽しかったし、理解が深まった。
・じっくり話を読み込んで、理解してやろうとした。楽しくできた。
・解説文は自分で考えて書くので、実力が身につく。
・最後の特別展の企画は楽しかった。良秀のことをまとめるために、作品をよく読んだ。
・国語総合 B は古典だが、現代に繋がる授業で、感性が磨かれそうで楽しい。
・いままでやってきたことを総合していろいろ意見を出すことができたのでよかった。次もがんばりたい。
・発想を豊かにできるのでいいと思います。
・みんなで考える、意見を聞くのが楽しかったし、いろんな意見に出会えて楽しかった。
・解説文で絵仏師良秀の内容を的確に表そうとすることで、語彙力が鍛えられました。
・キャッチコピー、解説文を作ることで、良秀がどんな人物で、なにをしたのかを振り返り、考えをまとめることができました。

◇　研究授業２

日時　　２月１９日（月）第１限
授業者　田中園絵
対象者　２年４組

説話「桃花源記」の第二段落の読解を行った。描かれている村の具体的な様子から、どのような社会・生活であるかをペアで考え、全体で共有した。その後、その様子が当時の一種の理想形であることを確認し、現代の日本社会にこの村（桃源郷）の要素は必要か否かという題で各自記述した。

【2. 情報科】

■情報科において育成を目指す資質・能力には次の 3 点が挙げられます。

・知識・技能

〈情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能〉

・思考力・判断力・表現力等

〈様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉える力〉

・学びに向かう力・人間性等

〈情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする態度〉

情報の授業では 4 月の最初の 1 ヶ月間で「情報モラル」について学びます。スマートフォンの使用や SNS に関するトラブル。個人情報の流出、著作権・肖像権の問題、詐欺などのサイバー犯罪。現代の情報化社会においては様々な問題が起こっています。それらの状況を想定してケーススタディを行い。情報化社会におけるモラル・知識を確認し、実際のトラブルに対応できる判断力を養います。スマートフォンやコンピュータの発達により、様々な情報が手軽に大量に手に入りますが、それらの情報をどのように活用すれば有効なツールとなるのか？利用上の注意すべき点・モラルは何か？授業の中でしっかり把握し、考えることができました。情報の発信者としてどのようなことに気をつけたらよいか考えることができました。

これらの学習を通して，上記の 2 番目の「思考力・判断力・表現力等」を身につけ，SNS などをコミュニケーション力や表現力を伸ばすツールとして有効活用していけると思われます。

◇　授業の取り組み

日時：平成 29 年度　4 月
授業者：堀内　雅彦
対象学年：1 年生

・「情報モラル」の授業の様子

「情報モラル」の内容
① なりすましメール・スパムメール
　・チェーンメール
② 個人情報の流出
　・プライバシーポリシー
③ プライバシーの侵害・誹謗中傷
④ 写真の肖像権
　・音楽・映像の著作権
⑤ サイバー犯罪
　・オークション詐欺・フィッシング詐欺
　・不正アクセス

＜事例＞
① LINE
② Twitter
③ まとめサイト
④ 誹謗・中傷
⑤ 写真の著作権　　他

◇　③授業の内容

授業は「第一学習社ケーススタディ　情報モラル　ver.11　こんなとき，どうなる？こんなとき，どうする？」をテキストとして用い，プリント学習で行います。

このテキストは下記の様に，項目ごとに各テーマに応じた事例のイラストと，項目についての詳しい解説。最後に簡単な確認問題から成り立っています。事例イラストの中の問題点を捉え，自分の身の回りに類似のことがらが起こっていないか？自分たちも知らず知らずのうちに陥りそうな状況はないか改めて考えることによって，必要な知識・モラルを再確認していきます。

・・・詳わしい解説は省略・・・

確認問題

＜Q12＞次の①～ ③の説明のうち,正しいものに〇をつけなさい。

①ロコミ投稿欄の記述では,本気なのか冗談なのか判断できない。

②ロコミ投稿欄に書き込んだことが問題になっても,あとで削除すれば解決できる。

③ロコミ投稿欄でみんなが同じ意見を書いている場合は，それが正しいと考えられる。

(正解は①)

＜Q15＞　次の著作権に関する説明のうち,正しいものに〇をつけなさい。

①コンピュータのプログラムは自在に変更できるので,著作物とはいえない。

②ダンスや舞踊など,人が表現するものであっても著作物として扱われる。

③人気アニメのキャラクターも,自分で描けば web ページで公表してもよい。

④家族がつくったものならば,なんでも自由に web ページに載せてよい。

(正解は②)

「第一学習社ケーススタディ　情報モラル　ver.11　こんなとき，どうなる？こんなとき，どうする？」より

まとめ

「LINE」や「インスタグラム」など，コミュニケーションのツールとして何気なく利用しているものが，意外な危険を含んでいるかもしれないことを考えるきっかけになった。現代社会においては新しいツールがどんどん現れては消えていく。その中で人の立場・気持ちを考えることができること、そのためのモラルを自分で判断できる事が大切になる。写真を投稿する場合の肖像権・WEB ページの画像を使用する際の著作権の問題など、モラルや法規をしっかり認識した上で，スマートフォンやコンピュータを有効に利用していくことを考えたい。

【3. 英語科】

■　はじめに

本年度の具体的重点目標は『しっかりとした「知識・技能」の習得の上にたって、「思考力、判断力、表現力」を育み、学ぶ意欲を高める教育内容・方法を研究し実践する』である。英語科では授業等で身に付けた知識・技能・語学力をもとに、思考力や判断力を育成し、コミュニケーション力、表現力を伸ばす授業方法を研究しています。習得した様々な力を課題発見・解決力へと統合し、ＳＧＨ課題解決型研究や国際貢献活動に活かすためには、英語によるコミュニケーション力・表現力・語学力は不可欠である。そのため英語科では、豊富な言語活動やアクティブ・ラーニング等を積極的に授業に取り入れ、４技能を総合的に育成する授業方法・言語活動が生徒主体となるよう、授業改善に英語科全体で取り組んでいます。

◇　授業改善

■本年度の研究テーマ：　「学ぶ意欲を高め、英語力の定着を図る指導法の研究」
・4 技能を総合的に育成する指導法の研究
・生徒の英語による言語活動が主体となる授業の工夫

◇　研究授業

本年度の研究テーマに即して研究授業を実施しました。英語科スタッフ全員で授業を参観し、今後の授業の在り方について研究しました。

日　時：	平成 30 年２月７日（水）第１限
授業者：	山田　恵　教諭　　学　級：　普通科２年３組
教　材：	Genius English Communication Ⅱ Lesson 10 “Donald Woods: Real Journalism Takes Courage”

■　授業担当者の感想

４技能を意識的に取り入れて授業を実施するよう日頃から心がけています。プリント学習を基に、本文の内容理解をパラフレーズし、音声によるシャドーイングを行います。音読活動はペアを交代させる等、様々な手法で繰り返し行いながら英語のインプット活動をさせていきます。その後、ＱＡやキーワードを用いた本文の内容の要約（サマリー）を発話やライティングで行っていくことでアウトプット活動へと繋げていきます。英語に対して大変意欲のあるクラスなので、日頃から難しいこと（例えばスピーチ、ディベートやエッセイライティング等）にも積極的に挑戦しています。

■　参観者の感想

・「南アフリカのアパルトヘイト問題」という重いテーマを題材としてその活動の意義について考え、自分の考えを表現し仲間と意見を共有する、という授業展開が良かった。
・All English の授業であるが、教師による質問が的確で、今何をすべきか、が明確に提示されていた。
・授業全体が温かい雰囲気の中で進められており、教師と生徒との信頼関係がきちんと築けられていた。

◇　英語科の取り組み

英語によるコミュニケーション力・表現力・語学力の育成はインプットからアウトプット・発信力へと繋げています。

平成 30 年２月 20 日　ＳＧＨ課題研究発表会

課題研究の集大成となる発表会は、司会進行、代表者の発表ともに英語によるプレゼンテーションとなりました。

写真はベトナム・フィールドワーク参加者による英語プレゼンです。

平成 29 年８月 27 日英語で思いを語る会

在名古屋米国領事館主席領事ゲイリー・シェイファー氏と将来の夢について語りました。

平成 30 年１月 31 日ふるさと教育フェスタ 2017

関市の特産品である刃物について英語でプレゼンを行いました。

平成 29 年９月 30 日英語スピーチコンテスト

自らの思いを英語で表現することの楽しさと難しさを知りました。

平成 29 年 10 月 10 日 TOEIC S&Wの受検

平成 29 年 12 月８日 TOEFL ITP Level １の受検

これまでに培った自分の英語力を測定するよい機会となっています。

◇　まとめと次年度への課題

本年度も英語によるコミュニケーション力・表現力・語学力の育成のため様々な取り組みを実施しました。授業を通して身に付けた４技能を最大限に生かして、授業外への実践と繋げていくことが英語科の目指すところであり、その意味では一定の成果を挙げています。次年度への課題としては、本年度の取り組みをさらに精選・ブラッシュアップし、より豊富な言語活動の場を取り入れることで、英語を学ぶ意義・重要性を伝えていきたいと考えています。

【4. 理科】

◇　研究授業（生物）

科　目：生物基礎　　単　元：1章2節　細胞とエネルギー
授業者：上野　智子　　対象者：１年４組
主　題：酵素のはたらきと特徴

■　授業概要

実験結果をもとに、酵素の働きと性質・特徴について理解する。

■　授業の様子

・実験をグループごとに観察し、実験結果の違いがなぜ起きるのかを考える。
・グループごとに、ホワイトボードにまとめ、意見を可視化する。
・実験結果の違いをもとに、酵素のはたらき、性質、特徴について考える。

■　まとめ

今回の実践では，生徒自身が実験操作を行う過程を省略し演示実験という形で，実験結果をもとに考察を行う部分に焦点を置いたことにより，じっくりと考察することができた。注目するべき点を明確にしたことで，実験結果を注意深く観察することができた。グループ学習を行う中で，実験で見たこと・感じたことを言葉で表現しまとめることで、科学的な思考力が深まった。

◇　研究授業（化学）

科　目：化学　　単　元：第４編　第２章　脂肪族炭化水素
授業者：田中　宏季　　対象者：２年５組
主　題：構造異性体を考える。

■　授業概要

・模型を用いて、アルカンの構造異性体について考え、名称をつける。

■　授業の様子

・グループで模型を用いて、アルカンのうち、C_6H_{14} と C_7H_{16} の構造異性体を考え、構造式で表現する。

・アルカンの命名法に従い、作成した構造異性体に名称をつけ、グループで確認し、ホワイトボードに提示する。

◇　成果と課題

・グループ学習により、課題発見・解決力、コミュニケーション力、表現力の育成ができ、科学的な思考を深めることにつながったと考えられる。今後は、生徒へのアンケートの実施による意識調査や振り返りにより、発問の精選や授業展開についてさらに研究し、科学的な視点からの課題発見・問題解決能力の育成に努めたい。

・化学では、模型を使用することにより、紙面では感じ取れない、分子の立体的な構造を考えることができた。

・グループ学習の意見の集約にホワイトボードを使用したことで、意見を可視化することができ、他のグループとの比較からさらに思考することができた。

・自然の事象を科学的に捉え思考するために、できる限り実物を提示し、模型や ICT 機器の活用も含め、より科学的思考が深まる授業実践に取り組んでいきたい。

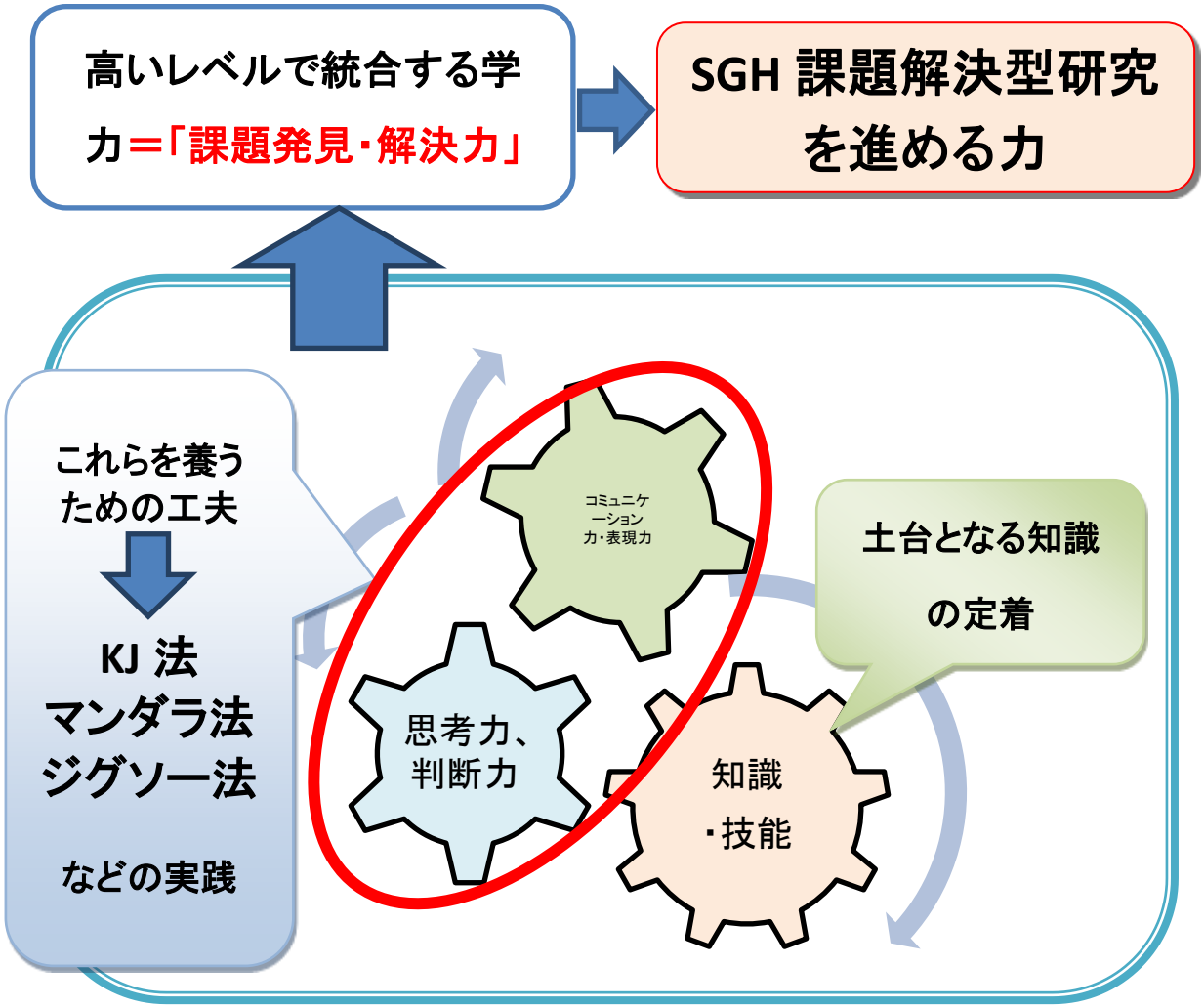
【5. 地歴公民科】

◇　地歴公民科の授業改善

＜授業改善の具体的な取り組みと方策＞

① 普段の授業において、確かな知識・技能の習得を目指す。
② 身に付けた知識・技能・語学力をもとに、思考力や判断力を育成し、コミュニケーション力、表現力を伸ばす授業方法を研究し、授業に生かす。
③ 修得した様々な力を課題発見・解決力へと統合し、SGH課題解決型研究や国際貢献活動に生かす。

＜H29年度の地理歴史・公民科授業改善モデル＞



これに基づき、土台となる知識の定着を平素の授業で進めつつ、それらの知識を活用して考えたり、表現したりする活動を実践する。これらの活動によって生徒の「課題発見・解決能力」を育成していくことは、SGHにおける課題解決型研究を進める力へとつながる。

◇　研究授業（世界史）

〇日時：平成29年5月30日　第5時限　　〇科目：世界史A
〇実施クラス：2年6組　　〇授業者：今村優希
〇単元：西アジア・北アフリカの文明　　〇テーマ：イスラームの誕生と広がり

◆授業の概要

・ジグソー法、エキスパート活動を通して、イスラームの教えの本質を、3つの新聞記事からメンバーで分担して読み取り、グループで意見をまとめる。
・イスラームの成立と、西アジア地域の地理的な特徴や当時の国際情勢の変化を関連付けて、成立の要因を多角的・多面的に考察する。

◆授業の様子

パワーポイントの活用

エキスパート活動による資料の読み取り

各グループでの情報交換と意見集約

グループの代表者による発表

◇　研究授業の成果と今後の課題

・思想や宗教、現代社会との関わりなど、世界史Bとは異なる世界史Aの特徴を踏まえた授業ができた。
・生徒の思考が深まらなかった要因として、そもそもイスラームに関する知識が十分でなかったということも挙げられる。イスラームの成立、発展について、歴史の流れをまずおさえた上で活動を行うべきだった。単に箇条書きで知識を挙げるのではなく、知識のつながりの分かる構造化された授業を行わなければならない。
・今後改善していくべきこととして、単元構成や授業構成において、活動をどういう意図でどこに位置づけるかを明確にしなければならない。その際、その活動が単元又は本時の目標と一貫性を持つように工夫しなければならない。

【6. 数学】

今回はICT機器を活用した授業についてお伝えします。

◇　企画の概要について

「生徒の意欲喚起と能力を伸ばす効果的授業内容と指導方法の研究」の一環として「ＩＣＴを活用した授業実践を進め，ＰＤＣＡサイクルを活用した授業改善」に取り組んできた。具体的には，高校の教育現場におけるICT機器を活用した授業を考える上で，数学として「どのような形でICT機器を授業に取り入れることができるか」また，「どのような使い方が効果的か」を研究・実践した。以下は，「その取組みと成果についての発表内容」である。

◇　授業で取り組んできたこと（ＩＣＴを用いた授業の例）

１　研究内容

① グラフ作成ソフトやパワーポイントを用いて様々な図形を視覚的に理解させる。

② 生徒の答案やノートを投影し，解答の検討をすることで，記述力と思考力の向上を図る。

２　ＩＣＴを用いた授業の実践例

【使用可能なＩＣＴ機器】

ア）プロジェクター　　イ）スクリーン（教室備え付・移動可能なもの）
ウ）コンピュータ　　エ）ipadmini(Apple TVあり)

【ＩＣＴ活用：例１】　コンピュータを使い，グラフを見せる。
単元・・・数学Ⅲ　第２章　式と曲線　　第２節　媒介変数表示と極座標
ねらい・・・グラフ作成ソフトを用いて，媒介変数表示された曲線をイメージする。
使用教材・・・ＧＲＡＰＥＳ（グラフ作成ソフト），コンピュータ，プロジェクター

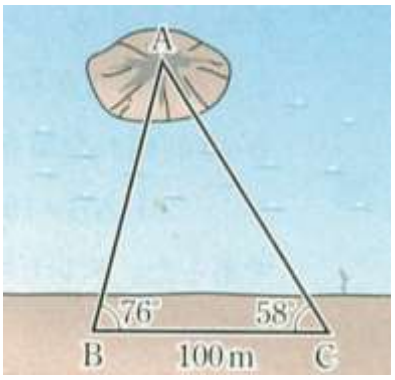
【ＩＣＴ活用：例２】　パワーポイントを使用し，導入時の展開をスムーズに行う。
単元・・・数学Ⅱ　第６章　微分法と積分法　　第３節　積分法
ねらい・・・パワーポイントを用いて，積分による面積について学ぶ。
使用教材・・・パワーポイント，コンピュータ，プロジェクター

【ＩＣＴ活用：例３】　生徒の解答をスクリーンに投影し，問題検討会を行う。
単元・・・数学Ⅲ　第６章　微分法の応用　　第１節　導関数の応用
ねらい・・・前期中間考査の実際の生徒答案を用いて，記述の仕方が多かったミスなどを検討し，生徒の記述力と思考力の向上を図る。
使用教材・・・ipadmini(Apple TV)，プロジェクター

【ＩＣＴ活用：例４】　ＩＣＴ機器の写真機能を利用した授業
単元・・・数学Ｂ　第２章　空間のベクトル　　第２節　確率
数学Ａ　第１章　場合の数と確率
ねらい・・・写真機能を利用して，前回の授業黒板や生徒のノートをスクリーンに映し，授業の導入をスムーズに行う。また，問題演習の際に様々な生徒の解答を写真に写して，考え方を共有する。
使用教材・・・ipadmini(Apple TV)，プロジェクター

研究授業①
授業者：小林正樹　　実施日：10 月 19 日(木)
対象学年：1 年生
～三角比を用いた測量～

右図のように,100m離れた海岸の２地点B,C から島の地点 A を見たら,
∠ABC=76°　∠ACB=58°　であった。
A,B 間の距離を求めよ。
(小数第２位を四捨五入せよ。)



三角比の考え方が身近に感じられる測量の問題を、実際の長さを計算するために、スマートフォン内の電卓アプリを関数電卓として用いて計算させた。本来であれば、正弦定理や余弦定理を学んだ後に学習する内容であるが、三角比の定義だけで答えを求めることができることを示した。三角比の定義は理解しているのでおおおその値は考えることができるが、関数電卓で正確な値を計算することにより、測量の正確さを実感させた。数値が出ることが大切なのではなく、三角比の考え方をどう活用していくかに焦点を当てた授業とした。

◇　考察と課題

１　考察
・生徒は興味深く演示の様子を見ていた。
・関数電卓により、計算は不要なので、解法を考えさせることに集中できた。
・関数電卓が手元にあるので、演習問題もスムーズに進めることができた。

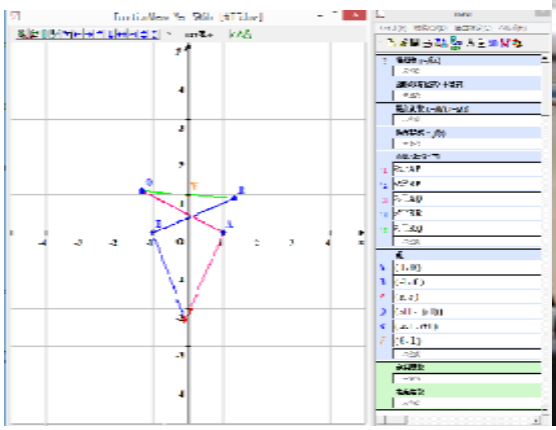
２　今後の課題
・準備の問題：生徒のスマートフォンを使用したので、事前に連絡しないといけない。
・機器の問題：生徒全員がスマートフォンを持っているわけではない。
・できれば生徒全員に最後の練習問題を解かせたかったが時間が足りなかった。

３　ＩＣＴを用いた指導方法の構築
・大切なのは生徒が考えを深めることであるのでＩＣＴはあくまで補助である。今回使用した関数電卓がないとできないということが起きてはいけない。なくても考えることができるが、あった方が考えやすいという場合にＩＣＴを活用できるといい。ＩＣＴを活用することで考えることに集中できるという今回の狙いは達成できたが、ＩＣＴの活用が考えの補助になるということも可能だとかんがえるのでまだまだ改善の余地はある。

研究授業②
授業者：河田高志　　実施日：12 月 5 日(火)
対象学年：2 年生理系クラス
～ガモフの宝探し問題文～

「この島には、井戸と松の木、梅の木がある。井戸から松の木に向かって真っすぐ進み、そこから右に９０度曲がり同じ距離だけ進み、そこに杭を打て。
次に、井戸から梅の木に向かって真っすぐ進み、そこから左に９０度曲がり、同じ距離だけ進み、そこに杭を打て。その２本の杭の真ん中に宝がある。」
その島には松と梅の木はあったが、井戸は土砂に埋まってしまい影も形も無かった。
しかし、探検家は見事にその宝を発見することができたという。数学的にどう考えれば、その宝の位置を見つけることができるだろうか？

ガモフの宝探しという題材の中でグラフ描写ソフト function view を活用した。授業の序盤で生徒は条件からプリントに作図をすることで、出発地点の井戸の位置を変化させても宝の位置は変わらないことを実感した。その後適切な座標を導入し、複素数の計算を行うことで宝の位置を確定させることができた。最後に補助的な役割として function view により井戸の位置が変化する中で杭の位置は変わるが、宝の位置は変化しないことを演示した。



授業で用いた　描写ソフト function view

授業の様子

◇　考察と課題

１　考察

・生徒は興味深く演示の様子を見ていた。
・スクリーンに映した図はとても見やすいものであった。
・井戸の位置の操作はパラメータが１つでとても動かしやすかった。

２　今後の課題

・準備の問題：設備が整っていない教室では，毎回設営をしなければならないこと。
・機器の問題：ＩＣＴ機器の台数に限りがあることで，制限がある。
・できれば生徒１人１人にソフトを使用させたい。

３　ＩＣＴを用いた指導方法の構築

・ＩＣＴはあくまで思考の補助だと考えるので、生徒が思考を徹底的に行った後、提示しなくてはいけないと思った。適切にＩＣＴを活用することで、補助になるだけでなく教材の面白みも伝えることができると考える。

【7. 家庭科】

家庭科で身に付けたい力

1　持続可能な社会の実現に向けてできることを考えよう。(Think　globally,　Act　locally)

2　よりよい明日を生きるために「自立」「共生」する力を付けよう。自立するために必要な知識と技術を身に付けよう。っ生活者の立場から社会や文化・政治経済の仕組みを学ぼう。

3　学習を実践に生かそう。生活課題を見つけ課題解決にチャレンジしよう。

◇地域や伝統文化について学び、課題解決や国際貢献に役立てる力を付けるための授業実践

指導のねらい

伝統文化を学ぶことにより、日本の文化と他国の文化の違いを知り異文化共生について考えたり、日本の文化を引き継いだり伝えたりすることの重要性に気付かせる。

授業内容

世界の民族衣装と和服の着方、たたみ方

①他国の民族衣装、洋服の構成を確認し、さまざまな衣文化があることに気付かせる。

②男性用の和服と女性用の和服の共通点と異なる点、着方を変えて年齢や職業を表現していることに気付かせる。

③お互いがモデルとなって実際に単衣長着(浴衣)を着装させる。

④着物をたたみ、平面構成の衣服の特徴を確認させる。

⑤日本の伝統文化を知ること、継承すること、他の文化圏の人に伝えることの大切さと意義に気付かせる。

授業風景：**浴衣の着装、たたみ方**

生徒の感想

- 和服を着るのは、今まで難しいと思っていいたけど意外と簡単にできた。今度からは自分で着てみようと思う。
- 衣服は、国によっていろいろな着方がある。洋服の方がはるかに簡単に着られる。
- 和服は帯や丈を変えることによって見た目を変えることができることが分かったし、着る時に気を付けることが沢山あって大変でした。たたみ方が意外に難しかった。
- 帯がきれいに結べるとうれしくてとても楽しかった。日本に住んでいる以上、和服の着方は必要になってくると思うので、もっと詳しく調べてみようと思いました。
- 伝統を守ることは大事だし一人で着られるようになりたいと思ったのでしっかり勉強していきたいです。
- 着物の着方だけでなく。片付け方までしっかりとあったので昔の人がいかに着物を大事にしていたかということが分かりました。このような機会はあまりないかも知れませんが、日本人の常識として着方も着せ方も身に付けていきたいです。
- 成人式で着付け屋が逃げたというニュースがあった。昔は皆自分で着ただろうからそういう文化が薄まっているのだろう。僕たちが残していくべきだと思う。

生徒アンケート結果

８割以上の生徒が和服に興味を持ったと答え、男女を問わず「着られるようになりたい」

と答えた生徒が多かった。

◇　課題解決や実習を通して自己表現力を高める。

指導のねらい

・グループワーク・ペアワークなどで、他者と積極的にかかわる機会を増やすことで、生徒に多様な考え方に触れさせ、自分の生き方を柔軟に考える力を育成する。
・実習を通して自己表現や課題解決能力を育成する。
・ホームプロジェクトで、地域産物を調査しそれを活用した料理や献立を考えて調理することにより実践力や課題を解決する力を身に付けさせる。

ホームプロジェクト(コンクールへの挑戦)

料理コンクール、朝ごはんコンクールへの挑戦をする。地元の農協の販売所やスーパーマーケットに行って地域産物を調べる。それを活用したオリジナル料理やメニューを考えて調理し、家族に食べてもらう。

成果

・岐阜女子大学主催第９回高校生「朝ごはん」コンテスト　　入賞者１名、入選者３名
　入賞作品「カルシウムたっぷり和食でさらっと朝ごはん」カルシウム６９４㎎/１食
　　献立内容：鮎の塩焼き、サクラエビ入りスクランブルエッグ、鮎の雑炊、小松菜のおかか和え、チーズ＆ベーコン in 油揚げ
　　料理について：祖父、祖母の家の近くの川(板取川)で捕れた鮎を使って朝ご飯を作りました。また、すべてのメニューにカルシウムの多い食品を使ったので、時間がなく１品食べ残したとしても必ずカルシウムが摂取できようにしました。
・第４７回ＦＨＪ-日清製粉グループ全国高校生料理コンクール　学校賞受賞

被服実習(巾着袋の製作)

紐通し口の作り方で２種のデザインから選択できるようにした。ボタンやレースなどの服飾を施すなどカスタマイズできたものには加点する。

被服実習作品

生徒感想

・最後のアレンジは結構頑張った。何か模様を付けようとして芸術性の高いものに仕上がった。本当はもう少し糸の太さや色も変えたかったし、模様の数も増やしたかったが、時間が足りなかった。
・裁縫は意外と楽しかった。家庭科で学んだことは男子にとっても大切なスキルだと思うので忘れないようにしたい。
・今回は自分のために作ったので刺繍は好きな花をやりました。もう、きんちゃくの作り方はわかったので今度はお母さんに作ってあげたいです。それでお母さんの好きなものの刺繍をしたいです。
・刺繍もやったことなかったけど友達に教えてもらったり、自身で調べたことを糧として自分のものにすることができました。
・自分が想像以上にまつり縫いが上手にできたので良かったです。

生徒は集中して取り組むことができた。友人の取組を見て、刺繍の方法を聞いたり、お互いに教え合ったりすることができていた。また、完成したことによる達成感も味わうことができた。

【8. 保健体育科】

■はじめに

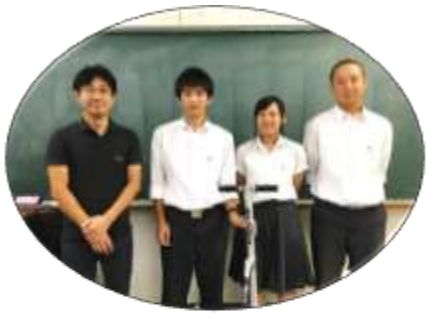
「課題解決型研究や国際貢献等の活動を通じて地球規模の課題発見・解決策を提言できる力を身につける」という目標達成のため、保健体育科では、体育理論の「運動・スポーツの文化的特徴」という単元において、世界共通であるスポーツの歴史や、文化的特徴を調べることにより、スポーツの面からも世界を分析し、多面的に世界を把握することを目標に設定した。県のオリンピック・パラリンピックムーブメントの事業にも併せ、オリンピックパラリンピックに深く携わっている方々の声を聴くことができた。

◆２年生 体育理論　「運動・スポーツの文化的特徴」
３.文化としてのスポーツ　４.オリンピックと国際理解　　５.スポーツと経済　６.ドーピングとスポーツ理論

今年度は、オリンピック・パラリンピックムーブメントの事業によって行われる、選手やトレーナ、技師装具の作成など、様々な分野でスポーツに携わっている方々に話を聞く機会がある。そのため、事前学習として、オリンピックの歴史や文化的特徴について、知識を十分習得した上で、グループ学習を行った。

グループ学習では、オリンピック・パラリンピックにおいて「する人」「見る人」「支える人」という視点について調べ学習をし、そのスポーツにおける課題を出し合った。視点分けをすることで、スポーツに対して多面的な見方を身に付けることができた。

授業の中で、オリンピックとパラリンピックの報道の差に疑問を持ち、オリンピックとパラリンピックを共闘させれば良いのではないかと考えた生徒の感想が、以下の通りである。



◆義肢装具の制作会社の社長の堀江さん

僕は、オリンピックとパラリンピックの報道の差が大きく不平等だと感じた為、オリンピックとパラリンピックを同時に開催し、共闘をすることはできないのだろうかと考えました。しかし、義足には制限がないために、共闘することはできないだろうと言われてしまいました。たとえば、走り幅跳びでは義足にばねのようなはたらきをするカーボンが搭載されているそうです。カーボンはとても軽く、速く脚を動かすことができ、また反発力もあるため、人の足よりも格段に記録が伸びていくと考えられるそうです。

少数の生徒ではあるが、授業で学んだ知識を元に、実際にオリンピックに携わる方に自らの考えを伝えることができた。実際に自分の考えを伝えられたことで、生徒は新たな知識も習得することができた。そして、カーボンが搭載されたホッピングを体験させて頂くこともできた。

カーボンが搭載されたホッピングを体験し、耐久性を体感しました。バランスがとりにくく上手に跳ぶことができなかったけど、カーボンの耐久力がすごくばねのような反発がとてもありました。カーボンに制限がないなら、パラリンピックの選手の方がオリンピック選手より、有利になるのではないかと思ったけど、パラリンピックの選手が義足を使いこなすためには、たくさんの練習と努力が必要であると感じました。

自らの考えを伝えることや実際に体験させてもらえることによって、新たな知見を得ることができ、深い学びへと繋がっていったと考えられる。オリンピック選手、パラリンピックのトレーナーの方々の講話における感想は以下の通りである。

◆オリンピック金メダリスト金藤理絵選手の講演

記録が伸びない時や辛い練習に負けそうになる時の心の持ち方や、緊張した時の考え方など、説得力のある具体的なご助言は、これからの生活において、大変ためになるものでした。
一緒に頑張っている仲間や支えてくれる家族や先生の存在を改めて意識できた。

◆鳥居昭久氏（愛知医療学院短期大学副学長）によるセミナー

僕は、バスケットボールをしています。今回の３on３を見て、選手の方々が車いすのまま、転んでも自分の力で立ち上がる姿を見て、感激しました。自分がバスケをしていて、すぐにあきらめてしまっている姿が、とても恥ずかしく思えました。僕は、つらい時でも、自分の力で立ち上がり、努力し、生きていきたいです。また、パラリンピックについて興味をもてたので、2020 年の東京パラリンピックも見たいと思いました。

■まとめ・課題

昨年度の課題であった、ＩＣＴ機器の活用はグループ学習においておおむね達成できた。今回パラリンピックについて多くのグループが課題を見つけ研究したが、実際に自分たちの周りで現在どのような事が必要なのかというところまで、解決策を見つけることができなかった。今できることは、調べて研究したことを多くの人に知ってもらう啓発活動である。

【9. 芸術科】

グローバル社会に対応した社会貢献できるような人材の育成を目指す学校だからこそ、音楽科としては豊かな感性と生きる力を養ってほしい、生涯にわたり音楽が側にある豊かな人生へとつなげてほしい、と願っています。

◇　音楽科の現状、授業で取り組んできたこと

〇生涯を通じて音楽を愛好できるよう、基礎知識の理解を深める目的で、コンコーネ・コールユーブンゲンの抜粋版でとにかく正しい音高で歌うことを目指しました。授業では練習曲、歌曲すべて伴奏はできるだけメロディーを拾います。その音に沿えるようにするためです。自分自身の音を客観的に聴き、響きを作り音高を整えることは意外に難しいものです。自己のイメージを確認できたとき、初めて音楽に対する感性が働くといった経験をしてもらいと年間通して行っています。

〇2 月 6 日に岐阜地区・美濃地区の音楽研究会で 1 年 7 組 40 人の研究授業を行いました。
題材名：歌曲に親しもう～Heidenröslein～　（本時が 1 時間目）
題材観：ドイツ語による言語唱。原語発音は大きな壁にはなりますが、原語が持つニュアンスが歌曲のベースになっていることを体験し、感覚的な魅力を理解することで、音楽の世界を広げ、作曲者の感性に触れる体験になることを期待しました。
学習活動：□ドイツ語のアルファベートについて。英語や既習のイタリア語との比較
・イタリア語のアルファベートにはｊ、ｋ、ｗ、ｘ、ｙは無いが（これらは外来語に使用はされる）ドイツ語は英語と同じ２６であること。
・ドイツ語は一文字一音。母音の a の発音はアー、アのみ。英語のように幾通りも発音されることは無いので（例外はありますが）つづられた文字はつづられたとおりに読んでいけば、ドイツ語は読めるということ。
□本日のメイン！ウムラウト
・ä…日本語の「エ」に近い発音
・ö…「オ」の口で「エ」と発音
・ü…口をすぼめた「ウ」の口で「イ」と発音
全力でふざけよう！そして、「レースライン」とは発音しない。rÖslein と発音！
□歌詞を一語一語発音しながら時間をかけて発音。特に HeidenrÖslein はこだわって発音。さらにカタカナ表記でカバーしきれない音は、朗読 CD や範唱 CD を止めながら聴き、実際に声を出して言葉の抑揚やリズム感をとらえられるよう繰り返しました。
□範唱⇒後追いを繰り返し 1 番を歌唱し、その後 2 番に。1 番の可愛らしさが、突如 2 番になると単語の響きからも雰囲気が変わるのが分かります。そこですでに 3 番の歌詞と意味を確認している生徒もいるのが関高校の素晴らしいところです。
この歌の映像がすでにできている生徒も見受けられました。
まとめ：□　歌詞に描かれた情景をイメージしながら表現に生かして歌おう。
□　100 人近い作曲家がこの曲に音楽をつけていることを知ろう。

参観された他校の先生から、「生徒達はリラックスした雰囲気ながらも、先生の問いかけに即反応したり、そうでなくても隣同士、前後で顔を見合わせて発音したり、学び合う姿があった。」「歌唱も、本日初なのにすでに言語とリズム、メロディーを結び付けて表現できるところが素晴らしい。」「どんどん歌わせたい！」等々あたたかい言葉をいただきました。

なにより授業に協力し、興味をもって授業に取り組んでくれた 1-7 組の生徒の皆さんのおかげでした。楽しい時間をどうもありがとう！！！！！！！

〇音楽文化についての学習

自国の伝統文化を知ることは[Be Global]の第一歩。日本音楽の良さや特徴を味わうことができるよう、環境の改善や、備品の整備に努めていますが、昨年度末に箏を三台、購入していただくことができたので、音楽Ⅱ（3年生）で取り組みました。

柱を立て、、調弦などの下準備をすることで楽器のしくみや特徴を理解することができて、置き方、禁則事項も学び、楽器を大切に扱う経験は日本の伝統を大切にする感情にもつながったように感じました。

時間を割いて、平調子（調弦の一つ）に自分たちで柱を立てられるようになりました。お互いがお互いの音を聴き合い、ガイド音に３台が合うように、数センチずつ柱を動かしていく気の遠くなる作業を辛抱強く、互いに問題点を伝えあいながら、親和的に作業を進めていく生徒たちを心から称えたいと思いました。そして最終的に、「レソラシ♭レミ♭ソラシ♭レミ♭ソラ」の何とも心地良い、箏独特の「和の音色」が響いた時の味わいは格別！心豊かになるひとときでした。

〇グループ学習

ミュージックベルも今年度で５台揃い、早速実践することとなりました。他グループの声と音が混ざり合う『騒音』の中での実践となってしまいますが、完成度にこだわり、集中力とチームワークで音楽を仕上げていくいくつかのグループの姿が大変印象に残っています。

音価、音高、リズムなどの単音を全員が見分ける大切さも反省点として残っています。

※難易度Ｅの曲に取り組むグループ。
ミュージックベル楽譜独特の「歌詞」は付されていない楽譜に加え、難解なオブリガードのリズムが、、、。すべてを分担して仕上げていきました。

◇　次年度への課題（音楽・美術・書道三科に共通すること）

手狭な教室と備品不足。日々の活動で、生徒にとって不利益が出ない状況を作っていく必要があると感じています。学ぶことや表現するための基礎力を持つ生徒たちが、さらにその力を磨き、十分に発揮できるようにしていきたい。芸術活動の思考の深まりや表現の工夫など、実際にに構成する活動をよりアクティブにするためには表現活動そのものを鍛錬する必要はもちろん、表現されていることを感じる視野を広げることが重要で、その環境を整えていくことは芸術科の重要課題であると感じています。